



つながる ひろがる あなたの **声**

今回や過去の取材班の記事は特設サイト(QRコード)でご覧いただけます。LINEや郵送、ファクスで取材班とつながる方法も記載しています。記事へのご意見や身近な疑問、情報提供など私たちに皆さんの声を届けてください。



愛知県内で見つかっている寄生虫「エキノコックス」について、医療関係者が会員制交流サイト(SNS)上で気を付けるよう呼び掛けているのを見て、不安になりました。エキノコックスについて注意すべき点を教えてください。(名古屋市中区、60代女性)

人に感染すると重い肝機能障害を引き起こすエキノコックスが、愛知県の知多半島で捕獲された野犬から相次いで見つかっています。北海道ではキツネを通じて感染が広がっていますが、本州の犬から複数確認されるのは異例のことです。知多半島はもともと、キツネの保護活動も盛んな土地。注意すべき点のほか、キツネに感染は広がっていないのかについても専門家に聞きました。



森若奈記者



感染しないために

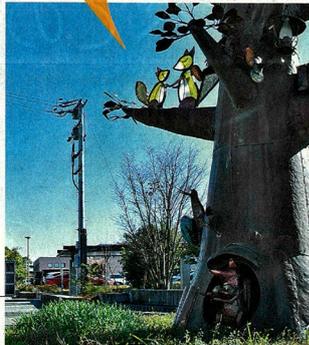
- ・野山に入った後は手洗い
- ・山菜は洗ってから食べる
- ・犬に拾い食いをさせない

エキノコックスに人が感染しないためには、どうすればいいのかわからない。愛知県の矢野担当課長は「野山に入った後に手洗いをし、山菜や野菜は洗ってから食べるなど、基本的な対策をしなければそれほど感染リスクが高いものではない」と話す。

県はこのほか「沢や川の生水を飲まないこと」「衣服や靴に付いた泥はよく落とすこと」を呼び掛けている。井戸水については「他の感染症を防ぐためにも飲用せず、水道水を飲んでほしい」と訴える。いずれもエキノコックスの卵が口に入らないようにするための対策だ。

飼犬の感染防止策についても聞いてみた。獣医師で北海道獣医師会の高橋徹会長は「犬を散歩させる時に拾い食いをさせないこと」を挙げる。また、感染したネズミや野犬、キツネが庭に侵入しないようにするため「動物が好む生ごみを外に出さないでほしい」と訴えている。

ゴンも心配してるよ みんな気を付けてね



# エキノコックス

# ご用心

寄生虫であるエキノコックスは、成虫で体長4mmほど=写真、国立感染症研究所(感染研)提供。これに感染した野ネズミを犬やキツネが食べることで、さらに感染が広がる。エキノコックスは犬やキツネの腸内で成虫になり、卵を産む。ふんとともに排出された卵が口に入ることで、人にも感染する。

人の体内では10年ほどの潜伏期間を経て、肝機能障害や黄疸が出るなどして死亡することもある。日本ではもともと、キツネが主に感染源となっていた北海道で広がっている感染症として知られる。北海道では近年、毎年20人ほどの新規感染者が確認されている。

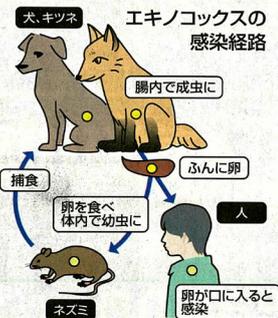
2005年には、本州の犬としては初めて埼玉県で感染例が見つかった。14年には愛知県阿久比町の山間部で捕獲された野犬のふんから検出され、本州の犬の感染2例目となった。その後、愛知県内では感染例が相次いでいる。

同県によると、17年度の県の野犬調査では知多半島の阿久比町、南知多町、知多市で計3匹のふんから検出された。19年度には半田市で1匹、20年度は半田、常滑両市でそれぞれ2匹から検出されている。

知多市 1匹 2018年2月	阿久比町 2匹 2014年3月 17年4月
常滑市 2匹 2020年4月 21年2月	半田市 3匹 2020年2月 4月 21年2月
南知多町 1匹 2017年11月	感染した野犬が見つかった地域

## 潜伏期間長い寄生虫

## 重い肝機能障害発症



知多半島のエキノコックスを調査、分析している感染研寄生物部の森嶋康之主任研究官は「感染した犬が継続して発見されている。感染した犬がそのたび外からやってきているのではなく、半島内で再感染していると考えられる。知多半島で定着したと言えるだろう」と語る。

これに対して、県の矢野昌伸担当課長(感染症対策)はキツネの陽性率が約40%ある北海道と比べ、県の野犬調査での陽性率は約1%であることを指摘。「エキノコックスがまん延している状況ではない」と話す。

一方、「ごんぎつね」で有名な童話作家・新美南吉の故郷でもある半田市。同市を含む知多半島では、市民や企業が一緒にキツネの通り道である「緑の回廊」を整備するなど、保護活動に取り組んできた。それ

## 知多半島で野犬から相次ぎ検出、定着か

だけに動揺も広がる。

「いずれエキノコックスを念頭に置きながら観察会を実施する時期がくるかも」

自然観察のイベントを定期的に開き、キツネの保護活動に参加してきた市民団体「知多自然観察会」の

は懸念する。会員には8月、半島で相次いで感染が確認されていることを伝える注意喚起のメールを配信したという。

果たして、知多半島のキツネが感染したケースはあるのか、否か。県が設置した野犬捕獲用のおりでは14年度以降、キツネが18匹捕獲されているが、全て陰性だった。

衛星利用測位システム(GPS)を使って独自に半島のキツネの生態を調査している日本福祉大の福田秀志教授(生態学)は「知多半島のキツネの感染はまだ確認されておらず、キツネが感染しているかのようには捉えられないのは事実と違う」と話す。

ただ、感染研の森嶋主任研究官は「キツネも感染している可能性はある。キツネやタヌキにも調査を広げるべきだ」と語る。県の矢野担当課長は「キツネを含めて調査をするかは今後、検討する。人への感染リスクもゼロではないので、啓発をしていきたい」と話している。

知多半島で人々に長く愛されてきたキツネ。感染の有無にかかわらず、遠くからそっと見守るのが大事なことに、変わりはない。

新美南吉の故郷・半田市にはあちこちにキツネのオブジェがあり、市民に親しまれている。愛知県半田市役所前で